

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		神田外語大学（学部・学科等の課程）			設置者名	学校法人 佐野学園			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和6年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
外国語学部	英米語学科	昭和62年度	340人	中一種免（英語）	昭和63年度（令和元年度）	336人	31人	31人	12人
				高一種免（英語）	昭和63年度（令和元年度）			31人	
	アジア言語学科	平成24年度	196人	中一種免（英語）	平成24年度（令和元年度）	187人	1人	1人	1人
				高一種免（英語）	平成24年度（令和元年度）			1人	
				高一種免（中国語）	平成24年度（令和元年度）			0人	
				高一種免（韓国語）	平成24年度（令和元年度）			0人	
	イベロアメリカ言語学科	平成24年度	128人	中一種免（英語）	平成24年度（令和元年度）	122人	2人	2人	1人
				高一種免（英語）	平成24年度（令和元年度）			2人	
				高一種免（スペイン語）	平成24年度（令和元年度）			2人	
	国際コミュニケーション学科	平成13年度	197人	中一種免（英語）	平成17年度（令和元年度）	173人	7人	7人	0人
				高一種免（英語）	平成17年度（令和元年度）			7人	
	入学定員合計			861人	合計		818人	41人	84人
教員養成に関する情報の公表状況		大学HP（2-7：教員の養成の状況についての情報） <a href="https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/">https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/</a>							
備考									

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	神田外語大学（研究科・専攻の課程）			設置者名	学校法人 佐野学園				
研究科・専攻等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和6年度）			
研究科	専攻等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	修了者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
言語科学研究科	英語学専攻	平成4年度	8人	中専修免	平成4年度（令和元年度）	20人	0人	0人	0人
				高専修免	平成4年度（令和元年度）			0人	
入学定員合計			8人	合計		20人	人	人	人
教員養成に関する情報の公表状況		<a href="https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/graduate/tesol/tesol_relatedinformation/">https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/faculties/graduate/tesol/tesol_relatedinformation/</a>							
備考									

## 教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：令和7年10月21日（火）

実地視察大学：神田外語大学（実地）

## 【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等については、一部是正が必要な箇所はあるものの、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

## 【個別事項】

## 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○貴学としての教員養成に対する理念・構想が示されているが、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努めていただきたい。

## 2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○教職課程における各科目のシラバスの内容を精査し、科目の繋がりを意識するとともに、教職課程全体における各科目の位置づけについて、今後改善を検討いただきたい。

○大学は、「教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」に基づき、教職課程の学生が児童生徒性暴力等の防止等に関する理解を深めるための措置を講ずることとされていることから、教職課程の内外においてこの内容を取扱うよう、今後速やかに検討いただきたい。

## 3. 教育実習の取組状況

○教育実習の事前事後指導については、単位付与の時期、評価のあり方や内容を含め、全体のあり方について包括的に検討していただきたい。

○教育実習は、大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。近隣の県や教育委員会との連携を活かして体制を整えていただきたい。

## 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○留学等の理由により、後期から教職科目が履修できるように時間割の面で支援する丁寧な対応を確認することができた。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○学生が地元の小学校で英語での読み聞かせ活動を行う、英語の教員が県内の教員研修を行う等、地元教育委員会との連携が確認できた。引き続き、貴学の強みを生かした外国語教育等に御尽力いただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○施設・設備は充実しており個々の学生の学びを支える環境が整備されていることが確認できた。  
○教職課程一般に関する理論的・実践的な関連図書についても今後より一層充実されるよう検討いただきたい。

7. その他特記事項

○大学院における現職教員を対象とした TESOL プログラムや徹底した少人数指導など英語の専門性を高める工夫がなされており、大学の理念のもとに高い専門性を持った学生の輩出につながっていることが確認できた。